

### 早急に取り組むべき主な施策

多くの皆さまの声を聞き、津市のまちづくりを進める上での主な施策を「市民の命を守る」「市民の心をつなぐ」「市民のくらしを創る」とし、早急に取り組んでまいります。

#### 「命を守る」取り組み

東日本大震災は、多くの尊い命を奪うという事態をもたらし、原子力発電所の事故は、そこに住む皆さまの日常生活を一変させてしまいました。被災地の一日も早い復興を心から願うとともに、これまでの想定を超えた災害にも動じることのないまちづくりを進めていくことが、市民の皆さまの幸せにつながるものとあらためて痛感いたしました。



このため、地震、津波に限らず台風などの自然災害時に、市民の皆さま一人一人が安心して行動できるよう、津市地域防災計画の抜本的な見直しを行ってまいります。例えば、津波発生時の一時的な避難場所として、中高層の堅牢な建築物を活用できるよう、所有者の皆さまへ協力をお願いし、協議が整い次第、速やかに、かつ、段階的に避難場所としての指定を行ってまいります。



これとともに、自治会や自主防災会の皆さまと地域における避難の在り方について十分な協議を行い、災害時の避難経路の確立を目指してまいります。さらに、津波や高潮対策の大きな砦となる海岸堤防の整備については、一日も早く完成できるよう、国、県に働きかけてまいります。



次に、搬送先の病院が決まらず動き出さない救急車の問題であります。重症患者の方を搬送することができず、取り返しのつかない事態になることは何としても避けなければなりません。これまでも、三重大学における救命救急センターの設置や、三重県を中心に、傷病者の搬送および受け入れの実施に関する基準が策定されるなどの取り組みが行われてきたところであり、ご尽力いただきました関係機関の皆さまにあらためてお礼申し上げます。

今後は、こうした成果を十二分に生かし、迅速な救急搬送により、皆さまの尊い命を確実に守れるよう、地域医療に関わる方々とのより一層の連携強化を図ってまいります。これとともに、24時間フリーダイヤルの救急相談を開設することにより、急病時における市民の皆さまの不安解消を図ると同時に、救急車の適正利用と、一次救急、二次救急、三次救急の適切な受け入れ体制の確保につながるよう、鋭意取り組んでまいります。

#### 「心をつなぐ」取り組み

地域社会を支えてきたものは、それぞれの地域の日常生活の中で継承されてきた文化と風土、そして、支え合いの心であります。

少子化、高齢化などに伴う社会構造の変化の中で、ともすれば、地域を支えてきた心が忘れ去られることが懸念されています。しかし、こうした時代であるからこそ、支え合いの心を守り、さらに、地域が持つ価値を発見し、高めていくための基盤づくりが必要です。

このためには、例えば、それぞれの地域において、地域審議会などの既存組織の活用も念頭に、皆さまの声をしっかりと反映し、自らが主体となったより満足度の高い地域振興活動ができる仕組みづくりを進めると同時に、それぞれの地域の立場に立った市民サービスが提供できるよう、職員の意識改革にも努めてまいります。

また、高齢者が地域から孤立することなく安心した生活ができるよう、高齢者の見守りを行う「生活・介護支援サポーター」の育成や地域支え合い体制事業を推進するとともに、施設サービスが必要な介護度の高い高齢者については、できる限りスムーズな入所ができるよう、本年度に策定します「介護保険事業計画」などを通じ、特別養護老人ホームなどの施設整備を促進してまいります。

さらに、福祉分野のみならず、防災、教育、文化活動など「地域を守り良くしていこう」という市民の皆さまの諸活動の促進に努めてまいります。

